

2007年8月6日

報道関係各位

## ミスミグループ本社 2008年3月期 第1四半期 連結業績を発表 - 売上高・営業利益・純利益ともに第1四半期の過去最高を更新 -

株式会社ミスミグループ本社（本社：東京都江東区、社長：三枝匡）は本日、2008年3月期第1四半期（2007年4月1日～2007年6月30日）の連結業績を発表しました。主な業績数値は以下の通りです。

	<u>2007年3月期</u> 第1四半期	<u>2008年3月期</u> 第1四半期	<u>増減率</u>
	百万円	百万円	%
売上高	28,614	29,895	+4.5
営業利益	3,710	3,952	+6.5
四半期純利益	2,234	2,635	+17.9
1株当たり四半期純利益	25.74円	29.92円	+16.2

2008年3月期第1四半期の連結業績ハイライトは以下の通りです。

### 1. 売上高・営業利益・純利益ともに第1四半期の過去最高を更新

- 2008年3月期第1四半期は、売上高が前期比4.5%増の298億円、営業利益は前期比6.5%増の39億円、四半期純利益は前期比17.9%増の26億円とそれぞれ第1四半期の過去最高を更新し、持続的な高成長・高収益を実現しています。
- この好業績は、自動車、電機機械などの関連顧客が引き続き軟調な設備投資状況にあるものの、継続的な新商品の拡充、プライスダウンの実施、新規カタログ発刊などの施策を積極的に展開したことにより、当社主力事業である機械工業系各事業が順調に拡大し、中でも中国・欧州などの海外売上が好調に推移したことが主な要因となっています。

### 2. 自動化学業が引き続き成長を牽引

- 2008年3月期第1四半期の事業部門別売上高では、自動化学業、金型部品事業、エレクトロニクス事業、光関連事業および多角化事業の全事業部門において、売上高が伸長しました。
- 自動化学業は、年初より自動車・電子部品製造業等関連国内顧客からの受注の伸びが鈍化したものの、積極的な営業活動が奏功したことや、中国・欧州など海外において売上が大きく増加したことなどにより、売上高は前期比4.6%増の143億円を計上。（他事業部門へ組織の一部を移管した影響を除くと8.4%増）同事業部門の売上高が全体に占める割合は48%となり、当社の高収益を支える基幹事業として高成長を持続しています。
- 金型部品事業は、前期より続く自動車業界の軟調な設備投資の影響を受けましたが、中国を中心とする海外売上の増加により、前期比5.2%増の82億円の売上高を達成しました。

### 3. 国内外で高成長を継続し、中間期・通期ともに期初の予想通り

- 2008年3月期の業績は中間期・通期ともに期初の予想通りの推移を見込んでいます。中間期の業績予想は、売上高が前期比4.9%増の610億円、営業利益が前期比1.2%減の79億円、純利益が前期比2.9%減の47億円です。通期では売上高が前期比10.0%増の1,300億円、営業利益が前期比1.6%増の159億円、純利益が微増の94億円を計画しております（詳細は下記の表をご参照ください）。

#### 2008年3月期の業績予想(連結) (2007年4月1日～2008年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期	61,000	7,950	8,050	4,700	53.48
通 期	130,000	15,900	16,100	9,450	107.53

#### 【業績予想に関する留意事項】

この資料に掲載されている2008年3月期の見通し及び将来に関する記述部分につきましては、国内及び諸外国の経済状況、各種通貨の為替レートの変動、業績に影響を与えるその他の要因等、現時点で入手可能な情報をもとに、当社及び当社グループが合理的であると判断した一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの将来に関する記述のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は、様々な要素により、これら業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要素には当社及び当社グループを取り巻く経済情勢、市場の動向、為替レートなどが含まれます。

2008年3月期 第1四半期の当社連結業績の詳細は別添の決算短信をご参照ください。

この件に関するお問い合わせ  
株式会社ミスミグループ本社  
経営総務室 広報・IR 担当  
Tel : 03-3647-7037 Fax : 03-3647-5802  
電子メール : cc@misumi.co.jp